

# 先進リハビリテーション・ケアセンター 湯布院



独立行政法人 地域医療機能推進機構

湯布院病院



センター長  
湯布院病院  
院長

根橋 良雄



副センター長  
湯布院病院  
神経内科部長

森 敏雄



副センター長  
湯布院病院  
内科部長

宮崎 吉孝

## はじめに

当院は前身の湯布院厚生年金病院として昭和37年（1962年）に創設されて以来、脳卒中・整形外科疾患・循環器領域の術後のリハビリテーション中心の医療に取り組み、全国的にも評価される成績を納めてまいりました。

開院50周年を機に「先進リハビリテーション・ケアセンター湯布院」を開設いたしました。平成26年（2014年）にJCHO湯布院病院となり現在2年目になりますが、従来のリハビリテーション医療への貢献に、ますます力を入れています。

## I. センター設立の趣旨

リハビリテーション拠点病院として、チーム医療とエビデンスに基づく医療を一層推進し、さらに自らが先進的なエビデンスづくりをする事で、患者治療の向上とリハビリテーション医学に貢献することを目的といたします。

同時に職員の仕事に対するあたらしい動機づけと目標設定を通じて、当院で働くことの楽しさ、生きがいと誇りを持つ優秀な人材の育成も目指しています。

## II. センターの組織

センター長、副センター長の下に臨床研究チームを結成しました。

各チームは職種を越えた任意に参加する職員約10～40名のスタッフで構成されています。

各チームは先進にふさわしい研究テーマを掲げ、新しいテーマは随時追加し、研究終了時に解散します。

各研究は倫理委員会で審議された後に実施されます。

## III. センターの特徴

1. 一地方病院としてはリハビリテーションに関する先進的な臨床研究が総合的、多角的に取り組まれています。
2. MRI、光トポグラフィー、三次元動作分析装置、磁気刺激装置、電気刺激装置など大型機器が導入され研究環境が整備されています。トヨタ歩行練習アシストをH27年度に導入。
3. 全病院を挙げての取り組みであり、職員の意識改革と人材育成が実施されスタッフの士気は高く、病院の医療の質の向上が期待できます。
4. 研究データはリハビリテーション医学と患者医療に貢献出来ると考えています。

## 先進リハビリテーション・ケアをご希望の皆様へ

先進リハビリテーション・ケアの内容が知りたい。受診してみたい。



**まず、『地域連携室』にお電話下さい。**  
**電話 0977-84-5277【地域連携室 直通】**



先進リハビリテーション・ケアについてご説明します。



入院治療を希望される方には、問診票をお手元へお届けします。  
(対象:トヨタ歩行練習アシスト・磁気刺激・電気刺激)  
お名前、住所・連絡先等必要な事項を担当者がお聞きします。



**問診票にご記入の上、**  
**当院宛に郵送又はファックスをお願いします。**  
**FAX 0977-84-5890【地域連携室 専用】**



来院が可能な方は、原則として先進リハ・ケア担当医師の外来診療日に  
受診していただけます。

遠方で来院できない方は、  
先進リハ・ケア担当医師と電話でお話していただけます。  
(外来受診日・電話での問診日については後日ご連絡します)



受診 (もしくは電話での問診) の結果、先進リハ・ケアの適応と  
判断された方は入院予約を行います。

ベッドをご用意できましたら、数日前に地域連携室より入院日  
のご連絡を差し上げます。

※先進リハ・ケアの適応がない場合は、希望された治療ができないこともあります。



# 臨床研究チーム紹介

## トヨタ歩行練習アシストチーム

研究責任者 宮崎吉孝(内科部長) チーフ 佐藤周平(主任理学療法士)

### 【チーム方針】

重度麻痺者には長下肢装具を用いますが、体幹の動揺やぶんまわし歩行などの癖がついてしまいます。トヨタ歩行練習アシストは、立脚時は膝を固定して支え、遊脚時には膝の屈曲伸展をアシストして振り出しをできるようにする装置でトレッドミルと一体になっています。患者はハーネスで安全性を確保された状態で、トレッドミルでガイドを受けながら歩行練習を行います。脳卒中回復期での効果を検証していきます。本装置はトヨタ自動車(株)が臨床研究を目的に全国 22 施設に供給しているもので、大分県では当院のみに導入されています。



## 磁気刺激チーム

研究責任者 森 敏雄(神経内科部長) チーフ 首藤 武(理学療法士)

### 【チーム方針】

磁気刺激療法とは電気コイルから発生する磁気を頭部に当てて、大脳皮質の脳細胞を刺激する非侵襲的な療法です。研究により、様々な疾患の治療に有効であることが分かっています。

当院ではリハビリと組み合わせることで集中的に行い、回復期・慢性期の患者さんの機能回復を目指しています。主に脳血管障害後の上肢麻痺に対して行っていますが、脳血管障害後の下肢麻痺、パーキンソン病、脊髄小脳変性症にも使用しています。



## 電気刺激チーム

研究責任者 森 敏雄(神経内科部長) チーフ 日高隆之(主任理学療法士) 村田健太(作業療法士)

### 【チーム方針】

脳卒中や運動器疾患などにより、手・手指の曲げ伸ばし、足の上がりが悪い方に対して装具型の表面電気刺激装置や簡易型の電気刺激装置を用いて末梢神経(手・足の神経)に直接電気刺激を行い、他動的に手・手指、足を動かします。理学療法・作業療法と組み合わせることで筋力・可動域の改善、痙縮(筋肉が固くなること)の軽減を図ります。



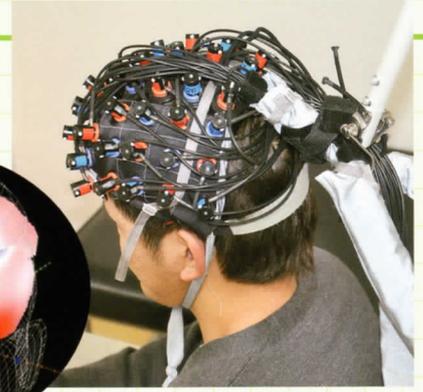
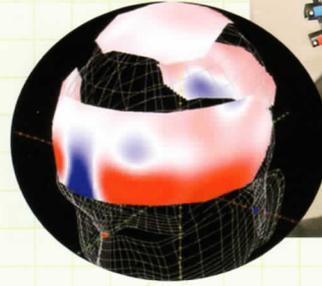
春

## 画像評価「NIRS」チーム

研究責任者 森 敏雄(神経内科部長) チーフ 西ノ園龍太郎(理学療法士)

### 【チーム方針】

近赤外線を使用して、脳表面の血流量を測定し、脳活動の状態をリアルタイムに表示できます。また、痛みや放射線のような有害性がないので、何回でも測定することができます。その特性から座位活動や歩行時の脳機能の観察を容易に行うことが可能であり、リハビリの治療効果の判定に利用することができます。



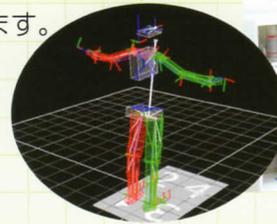
## 三次元動作解析チーム

研究責任者 宮崎吉孝(内科部長) チーフ 佐藤周平(主任理学療法士)

### 【チーム方針】

VICON MX カメラを使って歩行を中心に生活の中で行っている様々な動作を0.01 ミリメートルの精度で三次元的に解析します。また、解析した結果をもとにして効果的なリハビリテーションプログラムの提供に役立てます。

1. リハビリテーションによって障害が回復していく過程の解析
2. 歩行をアシストする機器、電気刺激などのロボットなどによる歩行改善効果の評価
3. スポーツなどの熟練技術の解析

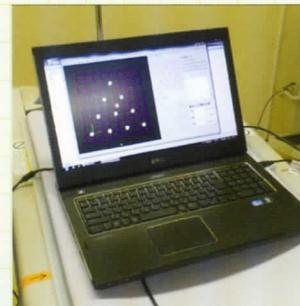


## 胃管挿入ガイド装置開発チーム

研究責任者 宮崎吉孝(内科部長)

### 【チーム方針】

胃管とは口や鼻から胃に挿入する管です。誤って肺などに挿入されると重大事故となりかねませんが、胃管をガイドする装置はありません。我々は電磁気学の技術を使ってガイド装置を鋭意開発中です。非常に高精度の試作機が出来上がっており、世界中に普及するような優れた製品にしていきたいと思っております。



夏

## 摂食・嚥下チーム：「食べる」

研究責任者 森 敏雄 (神経内科部長) チーフ 木村暢夫 (主任言語療法士) 木本ちはる (看護師長)

### 【チーム方針】

“食”は楽しみであり、喜びであり、“生きる”ことそのものです。私たちは「食」にこだわり「その人らしさの食」について追及していきます。「すべての患者さんに口から食べるチャンス」を急性期から慢性期、終末期においてもそのチャンスが訪れた時にあきらめない取り組みを進めていきます。今まで行われてきたリハビリに加え、よりよい方法を新たに見出すために今後もチームでアプローチを続けていきます。



## ゆふ医科歯科チーム

研究責任者 森 敏雄 (神経内科部長) チーフ 木村暢夫 (主任言語療法士)

### 【チーム方針】

地元歯科医師会との「ゆふ医科歯科連携システム」構築により、患者さんの口腔管理を入院から退院後まで継続的に実施し、リハビリが円滑に進むように支援します。

「よく噛んで食べる」ことは、健康に大きな影響を与えています。

噛むことは脳を刺激し、更には、口腔ケアと噛める入れ歯で患者さんのリハビリ効果も高まることが解明されつつあります。

咀嚼（そしゃく）や咬合（かみ合わせ）・義歯と全身状態との関係、摂食・嚥下や精神機能への影響を明らかにして、効果的なオーラルマネジメントのあり方を追求します。



## パロ（メンタルコミットロボット）チーム

研究責任者 大隈和喜 (心療内科部長) チーフ 麻生真紀子 (看護師長)

### 【チーム方針】

「パロ」は、アザラシの赤ちゃんの姿をしたロボットです。人間の呼びかけに反応し、豊かな感情表現や動物らしい仕草で人を和ませ、心を癒します。認知症の症状緩和や意欲・活力の向上など様々な効果が報告されています。当院では、病棟などでの介護補助やメンタルケア目的としても使用し、リハビリ治療の一環としてアニマル・セラピー効果が期待されています。



# 秋



## 転倒予防チーム「ころばナイン」

チーフ 西ノ園龍太郎(理学療法士) 井上美鈴(看護師長)

### 【チーム方針】

ころばナインチームでは、リハケアサービスを充実させて転倒転落防止に取り組んでいます。9部署の様々な職種が多角的な視点で転倒要因分析を行い、患者参加の活動や用具の開発研究を進めています。また、院内に転倒ポスターを掲示し患者の転倒予防に対する意識向上も図っています。さらに、職員への研修を行い、転倒予防に対する意識や技術の向上と身体拘束廃止の取り組みについても認識を深め実践しています。

転倒・転落事故防止10カ条 項目

前たちは絶対に転ばない

- 1条 慣れたころ初心にかえろう2と4週!
- 2条 早朝と夕、転びやすいぞ、魔の時間!
- 3条 トイレ・部屋 転倒頻発 気を付けろ!
- 4条 寝具装着キッチリと、それは転ばぬ先の杖!
- 5条 物を取る、しっかり近づき 踏んばって!
- 6条 車椅子、位置とブレーキ、足のせ台!
- 7条 床頭台、杖の代わりと通信せず!
- 8条 濡れた床、よくみる、転びの誘い水!
- 9条 主治医活動認定証、それが私にできること!
- 10条 職員を呼ばない遠慮は 転ぶもと!



## 排泄リハ・ケアチーム：「ゆ〜りん」

研究責任者 森 敏雄(神経内科部長) チーフ 近藤真知子(看護師長) 船戸明暢(理学療法士)

### 【チーム方針】

脳卒中や運動器疾患の患者には何らかの排尿機能障害を有する人が多く、生活する上で排泄管理は患者の精神状態・生活機能・退院後の方針に大きく影響を与えています。排尿機能障害を有する人には入院時より排尿障害の状況・膀胱機能の評価を行い排泄に関する機能改善や悩み・不安に対して援助方法を提案します。

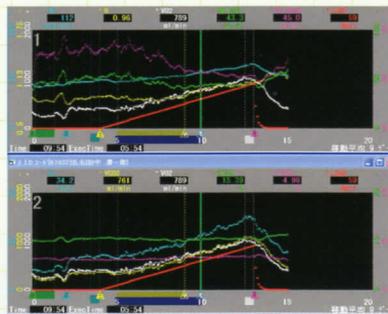


## 健康増進・アスリートチーム：「メッツ」

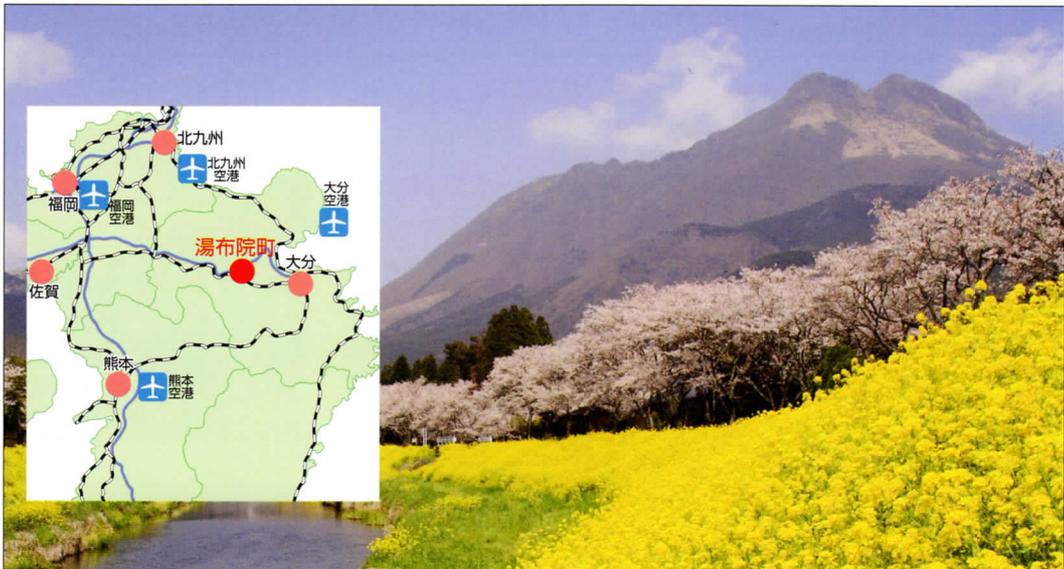
研究責任者 福永 充(循環器内科部長) 大隈まり(内科医長)

### 【チーム方針】

呼気ガス分析による体力評価と骨塩体組織定量検査(DEXA)を用いた体組成分析を主なツールとして、生活習慣を運動・栄養の側面から科学的に検証します。障害者からアスリートまでを対象とした、安全で効果的な健康づくりを提案していきます。



冬



### 交通アクセス

- 由布院駅より 徒歩… 20分 タクシー… 3分
- 大分駅より由布院駅 久大線… 1時間
- 北九州より由布院駅 大分経由… 3時間30分
- 別府駅より バス… 1時間 タクシー… 40分
- 博多駅より由布院駅 久留米経由… 2時間30分



独立行政法人 地域医療機能推進機構

## 湯布院病院

〒879-5193 大分県由布市湯布院町川南252

TEL.0977-84-3171(代) FAX.0977-84-3969

<http://yufuin.jcho.go.jp>